



2025年4月10日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわっとん
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>



新しい仲間とともに、令和7年度も宜しくお願いいたします！

諦めない支援

理事長 貝沼 寿夫

新卒採用者2名を含め5名の新たな仲間を迎え入れ、さらに今月中旬には、2名の育児休暇明けの職員も戻り、法人全体で73名の職員で令和7年度をスタートすることができました。人手不足がこの業界のみならず全国的に叫ばれる中、これだけ龍鳳に集まってくれる、辞めずに働き続けてくれるのは、本当にありがたいことだと職員には感謝しています。今年度は、昭和で言えば昭和100年、第2次世界大戦終戦から80年、ライフパートナーこぶしが運営を開始して25年の節目の年となりました。

障害者福祉、とりわけ障害者支援施設（入所施設）にとって今年度が節目であり、これから大きな転換期に入ると予想しています。これまでも3年に一度の報酬改定に合わせて様々な義務化がなされてきましたが、今後これまでも増して様々な取組が義務化されていきます。令和6年度までに感染症および災害発生時のBCP策定や虐待・身体拘束・BCPなどに関する悉皆研修の実施が義務化されました。今年度は、事業所に地域連携推進会議を設置して、地域の関係者を含む外部の目（もしくは第三者評価の受審）を定期的に入れる取組が義務化されます。さらに令和8年度には、地域移行及び施設外の日中サービス利用の意向確認を行う責任者の選任、意向確認のマニユアル作成が義務化されます。

こうした取組を国が我々に義務を課すのは、その裏側に課題が存在するということ

です。感染症や災害のBCPに関しては、新型コロナウイルスや自然災害が頻発する日本の国土ならではの理由です。外部の目を事業所内に入れるのは、グループホームなどに株式会社が多く参入し、不適切な支援や運営が散見され、虐待も入所施設やグループホームで多く起こっている実態からです。利用者の意向確認は、従前からの意思決定支援を確実に行っていかうということであり、2年前の国連の障害者権利条約における対日審査の結果から、次の審査に向けての対策だろうと思います。結果によっては、入所施設解体議論がなされる可能性も否定できません。それは当然避けたいですし、阻止できるようにしていきたいと考えています。

意思決定支援については、入所施設には特に重度の方が多く、ほとんどの利用者さんは言語理解や表出がなく、かなり難しい課題です。また、これまでの実践で得た専門性を地域に生かしていくことや地域拠点として緊急受け入れなど、まだまだ地域に貢献していく取組も必要です。今年度のキーワードは、これまでの「断らない支援」から『諦めない支援』へとバージョンアップしました。ただ断らないではなく、お受けした以上は諦めずに最善の状態を目指し、支援していきたいと思っています。

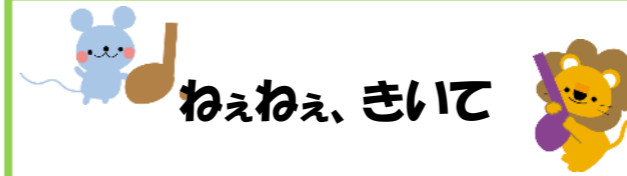
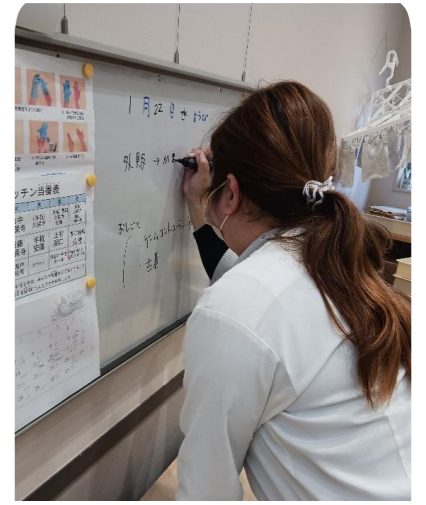
困難と感ずる意思決定支援にも、入所施設の価値や機能向上にも、諦めないをキーワードに、この節目を契機に施設・法人の職員全員参加で取り組んでまいります。



♪朝の会の進行役にチャレンジしています♪

右の写真は、Aさんがホワイトボードに日付を書いてくれている場面です。これまでは、職員が朝の会を進行していましたが、今年に入ってから少しずつ利用者さんもチャレンジ中！！

朝の会では1日のスケジュールの確認を行い、「今日も1日よろしくをお願いします！！」と皆さんで気合を入れてからお仕事を始めています。いつの間にか習慣になっている朝の会、今年度も利用者さん主体で取り組んでいきましょう(^)/★



生活支援員 増田 沙織

どの作業をするか迷っていたMさん。普段あまり選ばない作業を勧めてみると自信のない表情。やっている姿を見せてほしい事を伝えると作業に取り組み始め、最後まで終わらせた後笑顔で「ぐ？（グー）」と報告！自信に満ちた素敵な顔を見せてくれました☆



就労継続支援B型のカフェに見学に行きました！デザートまで食べて、皆さんにとっては花より団子です(笑) (照井 邦明)

お手伝いと見守る判断は難しい・・・

突然ですが、皆さんはヘルプマークを知っていますか？ここ最近になって道行く人のカバンに付いているのをよく見かけます。街中でヘルプマークの付いている人が困っている様子だった場合、こぶしの人間なら間違いなく助けると思います。しかし、中には助けを必要としない人も一定数いると思います。

駅で帰りの電車を待っていた時の出来事です。列に並んで電車を待っていると、自分の隣に松葉杖を持った少し歩行が不安定な人が来ました。よく見ると、カバンにヘルプマークがついていました。自分は音楽を聴きながら過ごしていると、突然その場で倒れ込んでしまい、無意識に声を掛けて起こそうとすると、「大丈夫ですから！」と強めに言われてしまいました。

現場での支援も同じように言える事ですが、こちらが良かれと思って助ける事は、ご本人の成長を阻害してしまう事もありますので、時には見守る事も大切だなと思いました。

生活支援員 近藤 伸哉

フォトニュース ～3月の様子～

☆プチ旅行に 行きました☆



航空公園へ!

☆活動・余暇風景☆



欠かせない“もの”

暖かい日差しと爽やかな風が心地好い季節になってきました。日本では昔から4月が年度始まりだからでしょうか、4月と言えばスタートの月というイメージが強くあります。そもそもなんで4月が年度始まりなのでしょう？調べてみるとお米を売ってお金に代わる時期で、政府にお金が集まるのが4月頃だったみたいです(諸説あり)。

お米と言えば、高騰が続いて私たちの生活に大きな負担となっています。私は、他の物価が高騰してもそこまで気にしないようにしてきましたが、お米の高騰が長引くことで不安と負担を強く感じています。それは自分や家族にとって、お米が欠かせない食材だからだと思います。

このように、誰しもが欠かせないものをいくつか持っているのではないのでしょうか。その一つとして人との出会いと別れも当てはまるのではないのでしょうか。こぶしでもほとんど毎年4月には、新しい職員さんが来ると同時に、今まで一緒に過ごしていた職員との別れがあります。職員も出会いと別れに戸惑う季節ですが、利用者はより戸惑いと混乱を抱える季節になります。特に、親しかった職員がいなくなる不安は私たちの想像以上かもしれません。

職員として、利用者の不安や負担が最小限になるように環境設定やケアを行い、新しい環境を受け入れてもらえるように支援しています。当然、簡単に受け入れることができないことも多々あります。そんな気持ちも受け入れつつ、一日でも早く新しい環境に慣れることができるように支援をしています。

私がお米以外の炭水化物を多く使うようになったのと同じように、利用者にも新たな親しい職員を一人でも多く作る手段や働きかけをしていきたいと思います。利用者職員で新たな成長のスタートを切りたいと思います。さあ、2025年度ライフパートナーこぶしのスタートです！

研修研究部 部長 高野 竜

お知らせ

次の通りご寄付をいただきました。
・ライフパートナーこぶし保護者会

20,000 円

頂いたご寄付は大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



一般社団法人東京馬主協会 助成金

東京善意銀行を通じ、一般社団法人東京馬主協会様からいただいた助成金で、食堂の壁掛けテレビを購入することができました。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



～法人本部より～

『健康経営優良法人』 取得しました！

この度、龍鳳は従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取組を戦略的に実践していることを認められ「健康優良法人」の認定を取得する事が出来ました。

これからも職員みんなが健康かつ働きやすい職場を皆さんと共に作っていきたく思います！

横のつながり

年度が変わり、この度、高齢対策課の課長を拝命いたしました。改めまして、宜しくお願ひ致します。突然ですが、昨今の高齢化が深刻な問題になっているのはご存じですよね。特に日本は高齢化が深刻な国の一つになります。日本の高齢化率(65歳以上の割合)は約29.3%に達しており、およそ3.4人に1人が65歳以上。世界でもトップクラスなのです。日本全体で高齢化が進む中、こぶしでも高齢化が進行しているのが現状です。

高齢対策課では、高齢化に伴い運動プログラムの見直しを図っています。日々の生活の中で少しでも運動を取り入れることで、体力の向上や維持を目指します。その中で、作業療法士や必要な課と連携を取り、“横のつながり”を大切にしていきたいと考えています。こぶしの高齢利用者さんが、安心して安全の生活が送れるように、その人らしさが溢れ生き生きとした姿で歩み続けることができるように取り組んでいけたらと思っています。

生活支援員 大鹿 真利会